

日 時	令和6年1月29日(月) 13:40~14:50
学校名/機関名	小山市立小山城南中学校
対 象	約220名
講 師	石見 多恵 氏 (株式会社プリオウェディングス T&S) 奥澤 健二 氏 (奥澤産業株式会社 代表取締役社長) 奥山 浩司 氏 (日本プラスター株式会社 代表取締役) 古口 勇二 氏 (株式会社古口工業 代表取締役) 林 明夫 氏 (株式会社開倫塾 代表取締役社長)
内 容	<p>今回は、1年生の職業学習として「職業に対する意識と意欲を高める」というテーマで授業を行った。生徒たちは自分の聞きたい業種の講師を2人選び、職業についての話を真剣に聞いていた。</p> <p>石見氏が持参したウェディングドレスに実際に触れることができ、生徒たちの目は輝いていた。また、一緒に来ていたマリアージュコーディネーターの方から、人の人生の重要な場に立ち会う喜びについて話していた。</p> <p>奥澤氏は、身近にあるが、どのように作っているかよく知らない、鉄鋼について、製造ラインなどを分かりやすく説明していた。また、自分の作っている物が社会の役に立っている喜びについて語っていた。</p> <p>奥山氏は、中学生のうちにやっておくべきこととして、自分の強みを見つけ、それを努力で磨くこと、と語っていた。そうすれば、自分になれる最高の自分になれると語り、生徒たちに努力の大切さを教えていた。</p> <p>古口氏は、人生において大切なことを生徒たちにとって分かりやすい言葉で伝えていた。「あいさつ」「感謝」「勉強」でAKB、という表現は、生徒たちの心にしっかりと留まっただろう。また、「当たり前のことを当たり前のように当たり前ができる」という言葉も印象的であった。</p> <p>林氏は、中学校の勉強は、どんな職業に就いたとしても必ず役に立つ。だから、教科書は捨てずに必ずとっておくようにと生徒たちに伝えていた。勉強の意味に疑問を持つ生徒たちにとって、勉強に対して前向きになれる言葉であった。</p> <p>今回の授業は生徒たちにとって、様々な職業に触れ、将来について考えるきっかけになったと思う。テーマ通り、職業に対する意識と意欲が高まる授業となったことだろう。</p>



